



MVR の設定

この章では、Cisco Nexus 3600 プラットフォーム スイッチでマルチキャスト VLAN 登録 (MVR) を構成する方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [MVR について \(1 ページ\)](#)
- [MVR に関する注意事項と制約事項 \(3 ページ\)](#)
- [MVR のデフォルト設定 \(3 ページ\)](#)
- [MVR の設定 \(3 ページ\)](#)
- [MVR 設定の確認 \(8 ページ\)](#)
- [MVR 設定の例 \(10 ページ\)](#)

MVR について

一般的なレイヤ 2 マルチ VLAN ネットワークでは、マルチキャスト グループへの加入者を複数の VLAN に設定できます。それらの VLAN 間でデータ分離を維持するには、送信元 VLAN 上のマルチキャストストリームをルータに渡す必要があります。そこで、そのストリームがすべての加入者 VLAN で複製され、アップストリーム帯域幅が消費されます。

マルチキャスト VLAN レジストレーション (MVR) を使用すると、レイヤ 2 スイッチでマルチキャスト データを共通の割り当て済み VLAN の送信元から加入者 VLAN に転送し、ルータのバイパスによってアップストリーム帯域幅を節約できます。スイッチは、MVRIP マルチキャスト ストリームのマルチキャスト データを、IGMP レポートまたは MVR のスタティック コンフィギュレーションのいずれかを使用して、ホストが加入した MVR ポートに対してだけ転送します。スイッチは、MVR ホストから受信した IGMP レポートを送信元ポートに対してだけ転送します。他のトラフィックでは、VLAN 分離が保持されます。

MVR では、マルチキャストストリームを送信元から伝送するために、少なくとも 1 つの VLAN を共通 VLAN として指定する必要があります。そのような複数のマルチキャスト VLAN (MVR VLAN) をシステムで設定でき、さらにグローバルなデフォルト MVR VLAN とインターフェイス固有のデフォルト MVR VLAN を設定できます。MVR を使用した各マルチキャストグループは、MVR VLAN に割り当てられます。

MVR を使用すると、ポート上の加入者は、IGMP Join および Leave メッセージを送信することで、MVR VLAN 上のマルチキャスト ストリームへの加入および脱退を行うことができます。MVR グループからの IGMP Leave メッセージは、Leave メッセージを受信する VLAN の IGMP 設定に従って処理されます。IGMP 高速脱退が VLAN でイネーブルになっている場合、ポートがただちに削除されます。それ以外の場合は、他のホストがポートに存在するかどうかを判断するために、IGMP クエリーがグループに送信されます。

MVR の他の機能との相互運用性

MVR と IGMP スヌーピング

MVR は IGMP スヌーピングの基本メカニズムで動作しますが、この 2 つの機能はそれぞれ単独で動作します。それぞれ、もう一方の機能の動作に影響を与えずにイネーブルまたはディセーブルに設定できます。IGMP スヌーピングがグローバルに、あるいは VLAN でディセーブルになっている場合、および MVR が VLAN でイネーブルになっている場合、IGMP スヌーピングは VLAN で内部的にイネーブルになります。非 MVR レシーバポート上で MVR グループ用に受信した Join、または MVR レシーバポート上で非 MVR グループ用に受信した Join は、IGMP スヌーピングによって処理されます。

MVR と vPC

- IGMP スヌーピングと同様に、仮想ポート チャンネル (vPC) ピア スイッチで受信された IGMP 制御メッセージは、ピア間で交換され、MVR グループ情報を同期できます。
- MVR 設定は、ピア間で一貫している必要があります。
- `no ip igmp snooping mrouter vpc-peer-link` コマンドは MVR に適用されます。このコマンドを使用する際、VLAN に孤立ポートがない限り、マルチキャスト トラフィックは送信元 VLAN およびレシーバ VLAN のピア リンクに送信されません。
- `show mvr member` コマンドは、vPC ピア スイッチのマルチキャスト グループを表示します。ただし、vPC ピア スイッチは、グループの IGMP メンバーシップ レポートを受信しない場合、マルチキャスト グループを表示しません。

MVR と vPC

- IGMP スヌーピングと同様に、仮想ポート チャンネル (vPC) ピア スイッチで受信された IGMP 制御メッセージは、ピア間で交換され、MVR グループ情報を同期できます。
- MVR 設定は、ピア間で一貫している必要があります。
- `no ip igmp snooping mrouter vpc-peer-link` コマンドは MVR に適用されます。このコマンドを使用する際、VLAN に孤立ポートがない限り、マルチキャスト トラフィックは送信元 VLAN およびレシーバ VLAN のピア リンクに送信されません。

- `show mvr member` コマンドは、vPC ピア スイッチのマルチキャスト グループを表示します。ただし、vPC ピア スイッチは、グループの IGMP メンバーシップ レポートを受信しない場合、マルチキャスト グループを表示しません。

MVR に関する注意事項と制約事項

MVR には、次のガイドラインと制限事項があります。

- N3K-C36180YC-R および N3K-C3636C-R ラインカードを備えた Cisco Nexus 3600 プラットフォーム スイッチでは、MVR がサポートされます。
- MVR は、個々のポート、ポート チャンネル、仮想イーサネット（vEth）ポートなどのレイヤ 2 イーサネット ポートでのみサポートされます。
- MVR レシーバ ポートはアクセス ポートでなければなりません。トランク ポートにはできません。MVR 送信元ポートは、アクセス ポートまたはトランク ポートのどちらかにする必要があります。
- Flex Link ポートでの MVR の設定はサポートされません。
- プライオリティ タギングは、MVR レシーバ ポートではサポートされません。
- MVR VLAN の合計数は 250 未満にする必要があります。

MVR のデフォルト設定

次の表に、MVR パラメータのデフォルト設定を示します。

表 1: デフォルトの MVR パラメータ

パラメータ	デフォルト
MVR	グローバルおよびインターフェイス単位でディセーブル
グローバル MVR VLAN	未設定
インターフェイス（ポートごと）	受信ポートでも送信元ポートでもない

MVR の設定

MVR グローバルおよびインターフェイス パラメータを構成して、MVR プロセスの動作に影響を与えることができます。

MVR グローバルパラメータの設定

MVR とさまざまな構成パラメータをグローバルに有効にすることができます。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **[no] mvr**
3. **[no] mvr-vlan vlan-id**
4. **[no] mvr-group addr [/mask] [count groups] [vlan vlan-id]**
5. (任意) **clear mvr counters [source-ports | receiver-ports]**
6. (任意) **show mvr**
7. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します
ステップ 2	[no] mvr 例 : <pre>switch(config)# mvr switch(config-mvr)#</pre>	MVR をグローバルにイネーブルにします。デフォルトではディセーブルになっています。 MVR を無効にするには、このコマンドの no 形式を使用します。
ステップ 3	[no] mvr-vlan vlan-id 例 : <pre>switch(config-mvr)# mvr-vlan 7</pre>	グローバルなデフォルト MVR VLAN を指定します。MVR VLAN は、後続のレシーバが加入するマルチキャストメッセージの送信元です。指定できる範囲は 1 ～ 4094 です。 MVR VLAN をクリアするには、コマンドの no 形式を使用します。
ステップ 4	[no] mvr-group addr [/mask] [count groups] [vlan vlan-id] 例 : <pre>switch(config-mvr)# mvr-group 230.1.1.1 count 4</pre>	指定した IPv4 アドレスのマルチキャスト グループ（およびオプションとしてのネットマスク長）をグローバルなデフォルト MVR VLAN に追加します。このコマンドを繰り返して、追加グループを MVR VLAN に追加することができます。 IP アドレスは a.b.c.d/m 形式で入力します。m はネットマスクのビット数（1 ～ 31）です。

	コマンドまたはアクション	目的
		オプションとして、指定した IP ドレスから始まる連続マルチキャスト IP アドレスを使用して、いくつかの MVR グループを指定できます。count キーワードを使用して、その後に 1～64 の番号を指定します。 オプションで、vlan キーワードを使用してグループの MVR VLAN を指定できます。それ以外の場合、グループはデフォルトの MVR VLAN に割り当てられます。 グループ設定をクリアするには、コマンドの no 形式を使用します。
ステップ 5	(任意) clear mvr counters [source-ports receiver-ports] 例 : <pre>switch(config-mvr)# clear mvr counters</pre>	MVR IGMP パケット カウンタをクリアします。
ステップ 6	(任意) show mvr 例 : <pre>switch(config-mvr)# show mvr</pre>	グローバル MVR 設定を表示します。
ステップ 7	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch(config-mvr)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

MVR インターフェイスの設定

Cisco NX-OS デバイスで MVR インターフェイスを設定できます。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **mvr**
3. **interface** {ethernet slot/port | port-channel channel-number | ethernet number}
4. [no] **mvr-type** {source | receiver}
5. (任意) [no] **mvr-vlan** {vlan-id}
6. [no] **mvr-group** addr [/mask] {vlan vlan-id}
7. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	mvr 例 : <pre>switch(config)# mvr switch(config-mvr)#</pre>	MVR をグローバルにイネーブルにします。デフォルトではディセーブルになっています。 (注) MVR がグローバルにイネーブルになっている場合は、このコマンドは必要ありません。
ステップ 3	interface {ethernet slot/port port-channel channel-number ethernet number} 例 : <pre>switch(config-mvr)# interface ethernet 2/2 switch(config-mvr-if)#</pre>	設定するレイヤ 2 ポートを指定して、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	[no] mvr-type {source receiver} 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	MVR ポートを、次のポート タイプのいずれかに設定します。 - 送信元：マルチキャスト データを送受信するアップリンク ポートが MVR 送信元として構成されます。そのポートは、自動的に MVR マルチキャスト グループのスタティック レシーバになります。送信元ポートを MVR VLAN のメンバにする必要があります。 - 受信者：MVR マルチキャスト グループに登録するホストに接続されているアクセス ポートが MVR 受信者として設定されます。レシーバポートでデータを受信するのは、IGMP Leave および Join メッセージを使用してそのポートがマルチキャスト グループのメンバになっている場合だけです。 MVR 特性を使用して非 MVR ポートを設定しようとすると、その設定はキャッシュされますが、そのポートが MVR ポートになるまで有効になりません。デフォルトのポート モードは非 MVR です。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	(任意) <code>[no] mvr-vlan {vlan-id}</code> 例 : <pre>switch(config-mvr-if)# mvr-vlan 7</pre>	インターフェイスで受信された Join 用にグローバルなデフォルト MVR VLAN を上書きするインタフェースのデフォルト MVR VLAN を指定します。MVR VLAN は、後続のレシーバが加入するマルチキャストメッセージの送信元です。指定できる範囲は 1 ～ 4094 です。
ステップ 6	<code>[no] mvr-group addr [/mask] {vlan vlan-id}</code> 例 : <pre>switch(config-mvr-if)# mvr-group 225.1.3.1 vlan 100</pre>	指定した IPv4 アドレスのマルチキャストグループ（およびオプションのネットマスク長）をインターフェイス MVR VLAN に追加し、グローバル MVR グループ設定を上書きします。このコマンドを繰り返して、付加的なグループを MVR VLAN に追加することができます。 IP アドレスは <code>a.b.c.d/m</code> 形式で入力します。m はネットマスクのビット数（1 ～ 31）です。 オプションとして、グループの MVR VLAN を <code>vlan</code> キーワードを使用して指定することができます。このキーワードを使用しない場合、グループはインターフェイスのデフォルト（指定した場合）またはグローバルなデフォルト MVR VLAN に割り当てられます。 IPv4 アドレスとネットワークマスクをクリアするには、コマンドの形式を使用します。
ステップ 7	<code>copy running-config startup-config</code> 例 : <pre>switch(config-mvr-if)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

VLAN からの IGMP クエリ転送の抑制

ソース VLAN からレシーバ VLAN への IGMP 一般クエリを抑制するには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. `configure terminal`
2. `mvr-config`
3. `mvr-suppress-query vlan vlan-ID`

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	mvr-config 例 : <pre>switch# mvr-config switch(config-mvr)#</pre>	グローバル MVR コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	mvr-suppress-query vlan vlan-ID 例 : <pre>switch(config-mvr)# mvr-suppress-query vlan 1-5 switch(config-mvr)#</pre>	一般クエリを抑制する必要がある MVR ID またはソース VLAN 範囲を表示します。VLAN ID の値は 1 ～ 3967 です。VLAN ID は、1 ～ 5、10、または 2 ～ 5、7 ～ 19 の範囲で表すこともできます。

MVR 設定の確認

MVR の設定情報を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
show mvr	MVR サブシステムの設定およびステータスを表示します。
show mvr groups	MVR グループの設定を表示します。
show ip igmp snooping [vlan vlan-id]	指定した VLAN 上の IGMP スヌーピング情報を表示します。
show mvr interface {ethernet slot/port port-channel number}	指定したインターフェイスの MVR 設定を表示します。
show mvr members [count]	すべての MVR 受信者メンバーの数と詳細を表示します。
show mvr members interface {ethernet slot/port port-channel number}	指定したインターフェイスの MVR メンバの詳細を表示します。
show mvr members vlan vlan-id	指定した VLAN の MVR メンバの詳細を表示します。

コマンド	目的
show mvr receiver-ports [ethernet slot/port port-channel number]	すべてのインターフェイスまたは指定したインターフェイスのすべての MVR レシーバポートを表示します。
show mvr source-ports [ethernet slot/port port-channel number]	すべてのインターフェイスまたは指定したインターフェイスのすべての MVR 送信元ポートを表示します。

次に、MVR パラメータを確認する例を示します。

```
switch# show mvr
MVR Status : enabled
Global MVR VLAN : 100
Number of MVR VLANs : 4
```

次に、MVR グループ設定を確認する例を示します。

```
switch# show mvr groups
* - Global default MVR VLAN.
Group start Group end Count MVR-VLAN Interface
Mask
-----
228.1.2.240 228.1.2.255 /28 101
230.1.1.1 230.1.1.4 4 *100
235.1.1.6 235.1.1.6 1 340
225.1.3.1 225.1.3.1 1 *100 Eth1/10
```

次に、MVR インターフェイス設定とステータスを確認する例を示します。

```
switch# show mvr interface
Port VLAN Type Status MVR-VLAN
-----
Po10 100 SOURCE ACTIVE 100-101
Po201 201 RECEIVER ACTIVE 100-101,340
Po202 202 RECEIVER ACTIVE 100-101,340
Po203 203 RECEIVER ACTIVE 100-101,340
Po204 204 RECEIVER INACTIVE 100-101,340
Po205 205 RECEIVER ACTIVE 100-101,340
Po206 206 RECEIVER ACTIVE 100-101,340
Po207 207 RECEIVER ACTIVE 100-101,340
Po208 208 RECEIVER ACTIVE 2000-2001
Eth1/9 340 SOURCE ACTIVE 340
Eth1/10 20 RECEIVER ACTIVE 100-101,340
Eth2/2 20 RECEIVER ACTIVE 100-101,340
Eth102/1/1 102 RECEIVER ACTIVE 100-101,340
Eth102/1/2 102 RECEIVER INACTIVE 100-101,340
Eth103/1/1 103 RECEIVER ACTIVE 100-101,340
Eth103/1/2 103 RECEIVER ACTIVE 100-101,340
Status INVALID indicates one of the following misconfiguration:
a) Interface is not a switchport.
b) MVR receiver is not in access.
c) MVR source is in fex-fabric mode.
```

次に、すべての MVR メンバを表示する例を示します。

```
switch# show mvr members
MVR-VLAN Group Address Status Members
-----
100 230.1.1.1 ACTIVE Po201 Po202 Po203 Po205 Po206
100 230.1.1.2 ACTIVE Po205 Po206 Po207 Po208
```

```

340 235.1.1.6 ACTIVE Eth102/1/1
101 225.1.3.1 ACTIVE Eth1/10 Eth2/2
101 228.1.2.241 ACTIVE Eth103/1/1 Eth103/1/2

```

次に、すべてのインターフェイスのすべての MVR レシーバポートを表示する例を示します。

```

switch# show mvr receiver-ports
Port MVR-VLAN Status Joins Leaves
(v1,v2,v3)
-----
Po201 100 ACTIVE 8 2
Po202 100 ACTIVE 8 2
Po203 100 ACTIVE 8 2
Po204 100 INACTIVE 0 0
Po205 100 ACTIVE 10 6
Po206 100 ACTIVE 10 6
Po207 100 ACTIVE 5 0
Po208 100 ACTIVE 6 0
Eth1/10 101 ACTIVE 12 2
Eth2/2 101 ACTIVE 12 2
Eth102/1/1 340 ACTIVE 16 15
Eth102/1/2 340 INACTIVE 16 16
Eth103/1/1 101 ACTIVE 33 0
Eth103/1/2 101 ACTIVE 33 0

```

次に、すべてのインターフェイスのすべての MVR 送信元ポートを表示する例を示します。

```

switch# show mvr source-ports
Port MVR-VLAN Status
-----
Po10 100 ACTIVE
Eth1/9 340 ACTIVE

```

MVR 設定の例

次の例は、MVR をグローバルにイネーブルにし、グローバル パラメータを設定する方法を示しています。

```

switch# configure terminal
switch(config)# mvr
switch(config-mvr)# mvr-vlan 100
switch(config-mvr)# mvr-group 230.1.1.1 count 4
switch(config-mvr)# mvr-group 228.1.2.240/28 vlan 101
switch(config-mvr)# mvr-group 235.1.1.6 vlan 340

switch# show mvr
MVR Status : enabled
Global MVR VLAN : 100
Number of MVR VLANs : 3

```

次の例は、イーサネットポートを MVR レシーバポートとして設定する方法を示しています。

```

switch# configure terminal
switch(config)# mvr
switch(config-mvr)# interface ethernet 1/10
switch(config-mvr-if)# mvr-group 225.1.3.1 vlan 100
switch(config-mvr-if)# mvr-type receiver

```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。